金華の校報

編集發行
金華小學校
後藤彌三
印刷
朝日新聞社

卒業を祝して

金華小學校長　後藤　彌三

皆さんがこの學校に入学したのは、昭和廿一年四月九日で私が金華小學校長として着任したその日でした。思えばつい先達のような気がしますがあれから早くも満六年を経過して目出度い卒業の日を迎えたのです。皆さんはこのなつかしの母校をあとにして、意々四月八日には威容堂々と整備された伊奈波中学に進學される事になつたのです。茲に嬢の言葉を贈つて前途の御多幸を祝福致します。

校長室には大きな柱時計が掛つています。私は毎日この時計を眺めてはいろいろ教えられています。その二、三を書いてみますと

1 時針の針は前へは進むが戻るんだ事は絶らぬ無駄に進まさに廻じたらこわれてしまう、これは「人間はいつも前進の一路をたどれあせらず止まらず正しく前進の一歩一歩を進め」と教えてくれるのでしょう。

2 ネヂを捲かずに居ると時針は止つてしまう、時計が悪いのではなくネヂがゆるんだからです。「人間も心のネヂをまかずに居ると止つてしまう。自分の心のネヂをかける事を忘れて自分は駄目だなどと見捨てないで、心にネヂをかけつゝ遠大な希望に燃えて進んで行け」と教えてくれるのではないでしょうか。

3 時針の中でも振子になつて動くあの玉がなかつたら、いくら機械は精巧でも形は新式でも時計は役に立たない「一番高い所にある長針短針を動かす振子が黙々と働いてくれるあの尊さに學べ」と教えてくれるのです。

又校長室の時計の下にはカレンダーが掛つていますが、そのカレンダーに書かれている次の言葉の意味は皆さんに判りましょうか。皆さんの心の糧にはならないでしょうか。

○自己の缺点に氣付いた時が進歩向上の第一歩である
○失望さえしなければ何時かは目的は達せられる
○不得手な事こそ真剣になれ不得手はおのづからなくなる
○考えるだけで事は成らぬ實行せねば喜びはない
○人やものごとを嫌う心は自分を狹く限つて暮す心である

校長室の東側に眼を轉ずると、皆さんが六年生になつた始めに「今年は皆さんをこんな子に育てたい」と念願した「誠實。精勵。清潔」の三つの言葉が掲げられています。皆さんは私のこの念願を身につけてくれたでしょうか。

○誠實…まごころで貧く、ごまかしをしない信用は無限の財産である事を知る。誠實はよき友を得るの道である。
○精勵…骨惜しみをせずに精一パイ働く、待遇以上に働きをする。働けば手腕力量が出来て生活力が増してくる。
○清潔…常に心も言葉もきれいである、大国民としての身だしなみを忘れない、あくまで純潔な身体であり、清廉潔白な心でありたい

皆さんおめでとう。昭和二十七年三月廿四日！永遠に忘れ得ぬ此の日、八十年の傳統を持つ金華小学校の出身者である事の誇を失はず、恥も弊れも一人でない事を胸に銘じて、自重自愛大成して下さい。

お別れの日に

小森　芳勝

皆さん御卒業のほまれを荷なわれた事を、心から御祝い申し上げます。

春は年毎にめぐつて来ては新しい希望をみなぎらせてくれます。

この春は皆さんの生涯の中で最も印象の深い時となる事でしょう。

ふりかえつて見ますと、皆さんがかわいゝ一年生としてお母様に手をひかれ、金華の校門をくぐつてから、早くも六ケ年の月日が流れてしまいました。

五年生になつたとき、私も皆さんと一緒に生活する様になりました。

五年の時の子供の日のみとし、長浦の海の思出、四季の里への遠足、養老公園の楽しかつた一日、六年になつて、最高学年となつてからの皆さんの活躍、夏の野間の燈台をながめた小野浦の夜思出は次から次へとつきる事がありません。

又、校庭のいちようの木や美しいお庭、なつかしい校舎なども、雨につけ風につけ思出の数々でありましょう。

これらのなつかしい思出を胸に秘めて、「さようなら」をする最後の日が来たのです。

しかし二百七十五名の皆さんは、そろつて中学の生徒として、進学する事になつたのです。

「人の一生は重荷を負うて遠き路を行くが如し」、と故人も言つた通り皆さんの努力はこれからです。

心をゆるめず更に新しい希望を以て運動に勉強にがんばつて下さい。

皆さんがそろつて、立派な人になつて、母校金華のほまれをあげて下さる日を待つています。

窓べに立ちて

安田百合子

今年も又雛の節句と共に卒業式がやつて来ました。校舎の窓から〝げば我が師の恩……〟の音が流れはじめてもう皆さんと別れなければならないことに氣ずき胸にぐつとおしつけられるものを感じました。

〝卒業お目出度う〟と喜びの聲はりあげて祝つて上げなければならない事はよくわかつているのに……

私が教員生活に入つて始めての卒業生であり金華轉任才一回の受持であるだけに一生私の胸に深くきざみこまれていることでしよう、此の二年間、笑つたり、泣いたり、けんかしたり、怒つたり、様々な足跡を残して来ましたが「楽しかつたそして短かかつた」の一句につきると思います。

五年或日の日記より：「動物園で豚か山羊を飼わないかと云われたがどうしたらよろしいか？」と先生より。はるかに高いT君が腰をかゞめてそばに来た「そうね町の中で餌がえらいけどみんな飼う気ならよろしいわ」と云つたら賛成が多く飼うことになつた。

又或日（六年）おばあさん山羊と子山羊と百円もらつてかえつた名前をメリーとつけた。みんなうれしそうだ。小さくピョン／＼はねる堤防を山羊と走つていく子供の姿は實に美しい。生きる喜びを胸一ぱいにひろげ凡てを愛し信頼しきつた姿である。教室で小さくなつている子も、よく宿題を忘れて叱られる子も、みんな同じ明るさに満ちているのだ。山羊の成長をどんなに楽しみにしていることだろう、それと同じ氣持で自分は此の子達の成長を待つているのでないか、とふと自分の姿をふりかえつた。

二階の窓に朝のさわやかな空氣がながれ込んでいる。

（七月二日の日記中）

山羊は六年二部の大きな思い出の一頁になるでしょう

よく学びよく働きよく遊びすべて大切なことですが、愛情の念を持つこのやさしい姿こそほんとに尊い姿だと思います、全人類を愛し信じ合つてこそ世界平和がなされるのです。現在は貧現出来なくても近き将来を夢見理想をえがいてゆきましょう。

正しくそして明るく力强く生きぬく事です。

いつ／＼までもこのきずなのきれませぬ様に。

巣立ち行く皆さんへ

中村すゑの

嬉しかつた事、楽しかつた事、淋しかつた事、数多い思い出を残して巣立ち行く皆さん。お目出とうございます。

卒業の日の感激を何時までも忘れないで下さい。

小学校、中學校、高等學校、大學校、それ／＼の校門は人生の中の小さな門なのです。私達の一生は大海無門であります。唯々半りかゞやく希望の前途があるのみです。

私達の学級モロすさんは次の詩を事ある度に思い出して下さい。

子等よ
青空に両手を高らかに翳け
廣々とした大空を
子等よ持て
廣い心と大いなる望みを
風雪吹き荒ぶとも
常に変らぬ青空の不動さを。
持て心に太陽を。
濃尾に君臨する金華山
厳とした不動の秀峰
子等よ持て
不動の信念と
必ずなるの自信力を。
淡々と流れのつきぬ長良川
清冽水明の長流
子等よ持て
人の爲に役立つ清き心を

常に変らぬ青空の不動さを。

持て心に太陽を。

濃尾に君臨する金華山

厳とした不動の秀峰

子等よ持て

不動の信念と

必ずなるの自信力を。

淡々と流れのつきぬ長良川

清冽水明の長流

子等よ持て

人の爲に役立つ清き心を

あたらしき首途におくる

松野　廣子

六年前の四月―丁度終戦のあくる年―私がこの学校に参りました昭和二十一年の春、一年生に入学した皆さんが、もう卒業するのですね。

過去六ケ年の思い出。学校も一時は大変混乱した空氣が漂つていて落着かぬ、不自由な生活もいたしました、二部に分けて教室を使つたこと、半分は開墾して畑にしてあつた運動場、春の遠足、秋の運動会、展覧会、音楽会、學芸会、皆さんと共に一晩過した修学旅行……。それぞれ皆さんの胸に深く刻まれて居ることと思います。そして学校を去つてからも皆さんは母校を思う事でしょう。

先生の顔が友達の顔が校舎の窓が思出されて皆さんを守つてくれる事でしょう何時までも皆さんの身体の中に生きて皆さんの實力となつて皆さんのこれからの生活を輝かせてくれることと信じます。

白い雪道の彼方に皆さんの希望が待つています。晴れた青空の彼方に皆さんの幸福が待つています。

〝山のあなたの空遠く
幸　住むと人の言う〟

この詩のようにとめどもなく盡きない憧憬と果しなく續く清い探究の中に、皆さんはチルチル、ミチルの旅を続けるのです。幸福の青い鳥。それは苦しみをのり越えて登つた山の岩かげに居るのではないでしょうか

青空のような美しい心。りんごのような快活な心を何時も胸に秘めて、人生の創造への限りない前進を皆さんはきつと續けてくれる事でしょう。

皆さん。卒業おめでとう大いなるのぞみ、輝かしい希望を胸に自信を持つて、力强く中学への第一歩をふみ出しましよう。そして强く正しく明かるく伸びて下さい。

卒業生に送る

山川　俊二

本日こゝに皆さんは六ケ年の課程を終えられ、新しい希望を胸にえがいて中学へと進まれようとして居ます。

皆さんが入学したのは敗戦後間もない二十一年四月岐阜の街もまだ爆撃の跡が生々しく残つて居りました生活必需品の配給制度がきびしく行われ、苦しい食生活をさせられました。布のカバン、風呂敷、お母さんの着物を更生したモンペという恰好、カバンを開ければ、新聞紙のような教科書が入つていました。

その頃入つて来て民主主義の思想は戦争のつらさをしみじみ味わつた日本人の頭を根本から切り変えました。「戦争をしないで平和を愛したい」これは今日大多数の人が考える考え方でしよう。

学校に於ては個人の人格を尊重し自治会が生れました。自治会では私達の学校は私達の手でよくしようという考えが育てられました皆さんは本当に自ら進んでよく働きました。

又、衛生思想が重んぜられ、健康を保つに大變よい習慣がつけられました。花壇もきれいにされ、緑の学園となりました。

昨年からは更にみなさんの活動を活潑にする為に、私達の手で学校をよくするために、いろいろな委員会が生れました。よい委員達は他の學習と同様、或いはそれ以上に、進んで委員会の仕事に責任をもつて真面目にやりました。

「もう一年でよいから一緒に勉强したい」こういう気持は卒業の日が近ずくと共に先生の胸の中にひしひしと迫つて來るのであります

靴がないといつては泣き傘がないといつては泣き、友達と泣いて喧嘩をし、電車で遠足が出來るといつて飛び上つて喜び、お料理實習だといつて喜んだあの時の顔が目の前にありありと浮んで来て名殘りはつきません。この學校を出られましても忘れないで時々遊びに来ていただきたいと思います。

生れ変つた日本は世界中の国民に好かれるように前進を續けて居ります。これからの人は小さな殻の中にとぢこもつていてはいけません。廣い心が大切です。

敗戦の為に百年おくれたといわれる日本が一等国に追いつくのは仲々むつかしいことです。貴方達こそ本当に民主社会に育ち、その中で勉强した人です。

皆さんが日本再建のリーダーとなつて働く人達です心構えを新たに、正しい道に第一歩を强くふみ出そうではありませんか。

御卒業おめでとう

一年　むらせくにお

ぼくたちを、かわいがつたり、めんどうを、みてくださつた、六ねんせいのおにいさん。おねえさん。もうぼくたちがにゆうがくしてから一ねんもたちこれで、おわかれです。もうじきさくらのはなもさきぼくのだいすきなおまつりもすぐです。けれどもおわかれですこの一ねんかんにうんどうかいもありました。おにいさん、おねえさんのあのじようずなはしりきようそうや、おねえさんのおゆうぎもありました。いまでもみるようです。けれども、けれどもこれで、おにいさんおねえさんともおわかれです。さびしいです。これからもがつこうへきつと、きつと、あそびにきてください。そしてりつぱな人になつてください。ぼくたちもよいこになります。

二年　ひびのおさむ

さようなら六年生のおにいさんおねえさん長くの間かだんや金かの学校をまもつてくださつてほんとにありがとう。ぼくはいまおにいさんやおねえさんがしんせつにして下さつたことが思いだされます。こんどはぼくたちでまた金かの小学校をもつともつとよくします。また木や花のなえもかわいがつてやります。六年生のおにいさんやおねえさんが見にきてくださつた時はもつともつとりつぱにしたいと思います。

元気な中学生になつてください。ぼくらもいい小学生になります。さようなら

三年　渡邊　嘉子

六年生のお兄さん、おねえさん、きようはめでたくそつぎようなさいましておめでとうございます。わたくしたちがにゆうがくしたとき、お兄さんおねえさんたちは四年生でしたね。わたくしは一年生の大風の日に、小さいからかさを風にとられて「こまつている時四年生の女の子にからかさをさしてもらつたことをおぼえております。それからえんそくうんどうかいじどうかいのことなどいつもいろ／＼おしえてもらつたことを思いだし大へんなつかしく思つております。私たちももうじき四年生になりますから一年生の子がはいつてきたら私もいろ／＼せわをしてあげたいと思います。どうかみなさんもおげんきで勉强して金華小学校の名をあげて下さい。私たちはいつしようけんめいはげみます。

おにいさん、おねえさん、さようなら

四年　栗田　國雄

そつぎようなさるお兄さんやお姉さん、ぼくたちとたのしく毎日あそんだりべんきようしましたが、いよいよそつぎようですね。もうこれでみなさんともおわかれです。ぼくたちが学校へ入学して、四年間いろいろおせわ下さいまして有りがとうございました。みなさんが金華学校をそつぎようして中学に入られることを心からおよろこびいたします。ぼくたちもすぐ後からついて行きます。どうか元気で入学して下さい。ぼくたちは、兄さんや姉さんたちが、みえなくなつてもいつしようけんめいに勉强を、して元気でやるかぐです。みなさんもほかの学校の人たちにまけないようにしつかり勉强をして下さい。そして中学へ行つてもどうか金華学校をわすれずにたびたび遊びにきて下さい。

五年　關谷　勝博

長かつた六年間も終つて新らしい希望をもつて中学へ進まれる六年生の皆さんお卒業おめでとう。

こうしみじみと机に向つて六年生の人達の事を考えてみると、平生余りありがたくもうれしくも感じていなかつた事などがいくつもいくつも浮んできてやつぱり僕達の御手本だつたと思わずにいられない。

僕がぼんやり左側を通つていたら注意して直してくれた。それからいつも交通当番をみると右側が浮んでもうしつかり出來るようになつた僕がけんかしていた時でもなかなおりする様にとめてくれた、又とび箱のとび方も放か後教えて下さつた。今では、前回りの七だんぐらいも、いくらでも出來てうれしい。

こうして考えていくと、いく人もの六年生の人に、いくつかのちがつたことを教えてもらつたことを、感謝せずにはおられない。

こうしたいくつものいお手本をのこして卒業なさる皆さんは、更に大きな氣持で金華の卒業生であることを心において、しつかり勉强にうんどうにはげんで下さい。

私達残つた者も卒業生の皆さんのいくつかのお手本をもとにして下級生のよき手本となるようい子のあつまりのいい学校となるよう努力していきたいと思います。中学は、小学校とちがつていくつかのむつかしいこともきつとあると思いますが、しつかり努力して下さい。

お知らせ

一、今年の學芸会には、いつもとちがつてとても立派な、中幕と奥の幕が講堂のぶたいにかゝつていました。六年生の方達が卒業記念に寄附して下さつたものです。これからは講堂で機会のあるごとにお兄さん、お姉さんのあついお心を思いおこすよすがになるでしよう皆で感謝いたしましよう。

一、大仏町山田孝氏は戦争のため沖縄で御子息を失われましたが先般沖縄へおもむかれました、その折り求められた沖縄用の珍しい白珊瑚を教育参考品として学校へ御寄贈下さいました。

またその折ドイツ製ライツ顕微鏡一基もあわせて御寄贈下さいました、ありがとうございました。

一、米屋町日下部初子氏、中新町安田てる氏御二人より、手火鉢六對の御寄附をいただきました。厚く御礼申上げます。

卒えゆく日を迎えて

六年一部

卒業

臼井 浩二

六年生の時先生と友達と皆で、望遠鏡を持つて山に登つたそして競輪場を見た。また遠い山を見た。すんだ空にどつしりとした金華山その上に立つて四方をながめた長良川も伊吹山も晴ればれしていた。僕はあの気持でお別れして行く。

さようなら

金華小學校

富成 鈴子

毎日々楽しく遊んだこの校庭、毎日々くぐつたこの校門、母校に残るお友達みんなみんなお別れだ、過ぎ去つた數々の思い出をむねに残して、また新しく出発するのだ。

思い出

吉村 紀子

母に連れられて、校門をくぐつたことを思う。うめがさいた時私は、学校へあがつた。またうめがさいた私は、卒業をしなければならない。楽しかつた時の事が、わすれられない。

校庭の木々よ

道家 茂子

校庭の木々よ、來る日も來る日も青々として、私たちの遊んでいたのを見つめていた木々よもうお別れだいつまでも、いつまでも、元気よく、青々と立つていてくれよ、樋向うの学校であなたのまねをして、立派にのびますよ。

思い出

百瀬 一之
宇野日出夫
神山 實男

一年生へあがる時に、おかあさんに手をひかれ、校門をくぐるうれしさ、友達と手をつないで遊ぶわらい聲、それをわすれず二年生に上つた。一つ下の子が入つて來たので、大いばりでいた。

三年生の時には先生たちと公園へ、クローバーをとりに行き、そのクローバを校庭に植えた。三年間にはすくすくのびてきた。みなもうこの学校では、二度と勉強出来ないと思うとなんだかさみしい気がする。しかし、かなしみも、さみしさも、うれしかつたことも思い出のアルバムにおりこんで、新しい中学へ希望にみちて進んで行くのだ。皆さんいろ〳〵とお世話になりました。

さようなら〳〵

校門

酒井智惠子

この校門をはじめてくぐつた時は、一年生の時だつた。かぞえてみると、いつのまにか六年生なんべんもくぐつた校門よ

六年間の思い出はまぼろしのようにうかぶ卒業していつてもきつときつと六年間の思い出をいだいてあそびに來ます。この校門をくぐつて、

恩い出

松野佳代子
小塩 接子

今日も一日すんだ。あといく日で卒業式を迎えるのか一日一日が名残りおしく、またたく間に過ぎる月日の早さ、ふり返つて見る六年間の事など今さらなつかしく思いうかんでくる。

うれしいうれしい一年生と歌つて入學し、あいうえおの一字一字を心をこめて教えていただき、運動会、遠足、思い出すと楽しい事ばかりうかんでくる。

でも今は、この母校とも別れる身となつてしまつたのだ。何も学校のためにつくさず卒業するのは今となつて重苦しい気持になる。

けれど長良川の向こうの中學へ行けると思うと、力強くなつてくる。四月になれば、希望にみちて、中学へ通うことでしよう。

希望

野呂 長子

いちようの木よ。長い間私達を見守つていてくれたいちようの木よ。大きな両手を四方にさしのべて、雨の日も風の日も、一人で立つている大きな木どんな悲しい時もどんなさびしい時も私の心をなだめてくれたいちようよ。

秋になつて卒業近くになるとまるでかなしんでいるかのように、自分の實をぽとぽと落していた。その落ちる音は強いひびきがこもつていた。

中学にいつたらしつかり勉強しておくれよ！と、私達はこのいちようの木にちかつてこの母校にちかうきつとしつかり勉強すると

六部二部

修学旅行の晩海岸へ出て先生にしかられた松井紀久子私達の母校をもつとりつばにして下さい。松井紀久子

かにはさまれ手にあとが残つている海水浴加納愛子私たちの手で作つたカーテンよさようなら、林美代子みんなの笑顔は一年に一度はみたい。河村頼子

横道にそれずきれいな心で眞直な道を歩もう堀部幸惠學校と別れても我師の恩を忘れるな。坪内基子

お蠶の給食中学ではなくなるのだ。坪内基子

研究会の時大勢の先生が見えた時の家庭科。川部淑香

六年生の遠足そすいきよう今でも思う。西松和重

雲にならずにあのかがやく太陽の子供になれ。中村榮

夏もすぎもう春だ希望に満ちて中等へ。小畑浩三

さようなら六年二部→同安田先生さようなら平山勝久今までおせわになつた校舎運動場さようなら河野邦夫よく野球をしたこの運動場友達を愛いし、手をとり合つて行こう。辻 倩

傷だらけの六年二部の札よいつまでも元気で高橋泰廣長かつた六年間短かつた六年間。高橋泰廣

僕は修學旅行の夜眞夜中に海岸で遊んだ。浅野浩一郎

みんな仲よく中学校へ。水戸康男

私は大きくなつたら母をたすけてあげよう。松皮節子

私はよくしかられてくやしかつた。北川秀子

この教室こんだはどの組がつかうのか。杉山洋子

遠足の前日はうれしくてねむれなかつた。安藤千惠子

右や左にわかれても学びの窓を忘れるな。喜多川愛子

夏休み山羊当番の帰り鐵ぼうで手をおつた喜多川愛子

卒業で山羊ともさようならをする時が来た。富田卓子

運動シャツ始めて作つてほめられた。丸山紀代

去年の夏始めておよげたとのうれしさ。野々目弘子

私が校門くぐつた日それは五年の三学期。神崎千惠子

一年の時犬にかみつかれないたことがある加藤三郎

四年生の終りに清水先生に三〇分しかられた松野圭佑

音楽の時聲がでないでばにせきをする。小西省司

明るく正しくほがらかに近藤克彦

自分は自分で自分の道を進む。宇野 清

自分の道を自分で思う通りに進め。水野 奬

天才より努力。大澤軍平

水泳大会で三年間一位大澤軍平

己れを欺く勿れ。川村益彦

すもうをしてなげられた時頭がわれそうだつた。酒井信雄

私たちのやぎかわいかつたく ださい。井上正子

私達のかつていた山羊を可愛がつて下さい。内藤雅子

下級生よすなおなよい子になつて下さい宇佐見比佐子

なつかしい教えの先生お友達お体を大切に。杉山悦子

楽しかつた水泳みんなよくおよいだ。上田政江

思えば長い年月だつたなつかしのアルバム。武藤吉子

よくここで四ばのクローバをとつて帰つた。松倉康子

窓からのぞくと一二三四と体操の時間。堀江恒子

巣立つ私らを見送る山羊よいつまでも元気で大野艶子

大きくなつて自家用車をかつて乗りたい。長谷保弘

ぼくと遊んだ友達よみんな元気で。河合健三

相撲大会にゆうしようした賞がのこつてる。田邊一男

二学期の時発電所に行つて雨にぬれるかな。信田秀男

六年二部の教室よさらばさらば。堀田伊三郎

ぼくのつくえはきずだらけだぼくがきずをつけた田中六年のとき、海へいつたときぬれなかつた。水野勝代

心に希望をもつて勉強しよう。酒井信雄

六年三部

中學へうれしくはいる一年生 国井茂明

心のきれいな人になりみんなと仲よく、車屋强

この窓で、習つた事から、忘れるな。後藤昭男

失敗しても、成功するまで泳げ。井上陸夫

学校のみなさん先生がた元気でさようなら。土田竹次

先生のようにまじめに生活 二俣真人

教室や運動場さようなら元気で中学へ。廣瀬一吉

恥も名誉も一人でない常に金華の誇りを忘れず。田中

四年生の時金華山からころがり落ちた。関谷 豊

歯をみがくように心もみがこう。須藤万美

大きな希望をもつて、なにに負けない。花村充浩

いよいよ卒業だ五年生の子よ頼むぞ。堀江基夫

大いちようの様にすくすくと勇気と正義心。武藤将彦

よく遊ばせてくれた、運動場よさらば。久保田嘉一

目がねを見ると中村先生を思いだす。大野健治

校庭よではさようなら。元気でね。坂井 寛

大きくなつたらりつばな外交官になろう。神谷真一

弟や妹をまもれ大いちよう 江崎哲郎

恩をわすれず。元気で学ぶ 藤井紀雄

希望を持つた進学だあみんながんばろう。鹿島 武

大きな希望を持つて卒業しよう。一色 昇

大きな希望。しつかりがんばる。士井 清

元気で中学へ大きな希望にみちて。古田忠夫

よくみがいた廊下きれいに光つている。小川二郎

長良川のような美しい心を常に持つよう。馬場正之

金華の子供のえ顔が僕らの頭に残つている。安田正實

まじめな心で小学校をでて中学校へ。今井宗久

金華学校の思い出はまず大銀杏。石崎欽之

元気な心で進もう。手をつなぎ。土屋千代子

元気に卒業。しつかり進む中学校。渡邊直子

大きな希望を持つて、正しい道へ進もう。吉田喜久子

大きくなつたら学校の先生になりたい。堀口早苗

先生と一緒にくらした教室がなつかしい。清水多美子

さあ希望を持つて元気にすすめ。野村幸子

楽しかつた六年間。橋詰寛子

六年間かよつた道、新しい道を行こう。山元加代

私達がおそうじしたあの職員室さようなら。村上治子

ふるい校門、新しい校門。橋詰寛子

わすれられない、教室の思いで。栗本好子

中學生だ。正しい道を、希望を持つて。毛利正子

懐しい小學校いろんなおもいでがうかぶ日比野千鶴子

わすれるな六年三部の教室さようなら。西垣佳津子

なつかしい運動場。村瀬幸子

學校の先生方いろ〳〵お世わになりました。宇野惠美子

長良川の様に清らかに正しく歩く。中島順子

先生方今日までおせわをかけてありがとう。河合照子

よくそうじした花だんいつまでもきれいで高屋佳世子

私は、さくらの咲いた、堤防を行く。河口かほる

希望をもつてしつかりがんばろう。高木早紀子

ぶらんこよすもう場運動場みんなさようなら古田昌子

なつかしい先生とも、おわかれさようなら。市橋信子

働け、人のためにもつと、働け。国島多香子

六年三組の思い出の窓。との窓ともお別れだ。田邊佳子

なつかしい運動場私はなつかしい思い出だ。大橋初子

やさしかつたあのせんせいいまもおもいだす。村瀬浩子

六年四部

ぼく達の体を守つてくれた衛生室よさらば。南谷勝敏

待望の中學生生活への胸躍る。岡部良一

楽しかつた六年間、さようなら。廣井 守

先生、友達、さようなら。浅野由也

将來への希望をいだいて中學へ。岡本 武

希望に向つて元気に進もう 大野好朗

天才より努力。寺町信哉

六年間の先生方さようなら 杉山平市

夢は美しく、希望は大きく 民田宏司

朋友よ、大志をいだけ。市川哲夫

友達よ、正しく眞直な道を 栗本寛治

美しかつた蕊老の瀧。田邊庄造

中学へ、大きな希望を持つ 伊藤幸二

金華小學校よさらば 栗本重次

さらば母校よ、すこやかに 河口充陽

ぼくたちの教室よさようなら。鷲見 勇

元気で中學へ行こう。平野泰三

正しい道、正直な心。廣瀬 巖

下級生よ元気でさようなら 杉山 治

若草の様にのびよう。田中治彦

金華の朋友よ、六きな希望名和紀男

を持て。金華の古巣から飛びたつ小鳥。伊藤泰雄

いつまでも希望勇氣をうしなうな。道家貞雄

思い出の校舎、校庭、グッドバイ。山田 肇

楽しかつた修学旅行。古田龍一

金華学校の皆さんさようなら。田中昭一

若草のごとく、のびのびと中学へ進級。多賀 勉

金華の学校ともお別れだ、さようなら。荒木勝三

校庭の大いちようよ、さようなら。大竹静子

正しほがらかに希望を持て校門よ、さようなら。浅野信子

朗かな気持で進んで行こう 和田美晴

金華の皆さん元気でさらば 吉田みよし

正しく、強く、眞直に。小野島照子

曲つた道は進まず、新しい道を進む。小山早苗

なつかしい友達よ、さようなら。臼井良江

希望を持つて中学へ行こう 安藤たか子

先生どうもありがとう。森 路代

平和な明かるい春の光がさしこんできた。伊藤美惠

思い出の先生、さようなら 各和千枝子

美しい心で中学へ。大竹令子

金華の下級生よ元気でね。皆 谷薫

心に太陽を持つて明かるく中学へ進もう。日比野昌子

希望を持つて眞直に進もう 村瀬良子

なつかしい小学校さようなら。宮口紀子

級友よどこまでも真直な道を歩め。古本君子

なつかしい思い出の学校よさようなら。渡邊紘子

陽春三月、いざ我等希望の青空へ。小松木昭子

今日で金華小学校とお別れだ。大橋稔夫

たのしい時も苦しい時もあつた六年間。箕浦 功

新しい生活への希望が、今すぐそこに見える。小森隆司

金華のお友達、みんな元気でさようなら。高橋十四夫

春がやつて来ると僕たちは中学へいける。村上 勝

卒業式の朝、これでお別れかと胸いたむ。北川靖男

中学では野球部、目あてはプロだ。小川博司

卒業だ、この教室ともお別れだ。吉田好成

どんな苦しさにも負けない人になろう。酒井友宏

つらいこと、楽しいこともなつかしい六年間。桜井彰市郎

自分の出た事を反省してみる。永井勝彦

思い出をあとに、希望にみち新制中学へ進む。浅野圭三

ぼくらの力で日本を、平和な文化国家に。野々村幸雄

僕達で今まで育てた花壇は皆で更によく。天野順夫

校庭の大いちようよさようなら。山本惠一

春すぎて、秋すぎて思えば早い六年間。大西歳光

講堂では卒業式、小鳥が悲しそうにさえずる。大澤信昭

思い出深き校庭や、思師の君よ、いざさらば。山口三郎

金華城下の我が友よ、母校の為、活氣に生きよ。岩田紀夫

先生方、みなさん、ありがとうございました。留田幹夫

中学へ行けば、給食がないのでさみしい。藤吉 進

卒業式の朝、しずまつた学校、なつかしい校門。鷲見紀雄

この学校ともわかれ、あたらしい中学です。長屋 元

卒業、目頭が熱くなり、師の顔、友の顔が浮ぶ。早川芳子

かなしい卒業、布望の入學思い出多き六年間、長いよう、しかし短い今日。武藤智津

我が友と校庭を去る。河野清子

「中」のバッヂを光らせて私達は中学生。鷲崎弘子

學校のお友達よ、お別れしても仲よくね。瀧本政子

延び行く身体きたえたら、次は心を琢磨なり。高岡信子

篠田喜美子

卒業や、校庭にゆれる木、さようなら。堀 牧子

螢光の歌で別れても、変らぬ友情。高木章子

六年間の思い出が次から次へとやつて來る。鬼頭三津子

みなさん努力して勉強しましよう。三ツ山由紀子

うれしかつた旅行、今もわすれない。服部里子

あの校庭で、教室が、なぜか忘れぬ思い出だ。堀口登美子

二十四日は卒業式、小鳥もピイピイ鳴いている。加藤佳代子

もう卒業、大いちようがさようならしてる。藤田春子

学校の桜の木よさようなら 真淵秋子

先生、在校生、皆様の御健康を御祈りします。藤澤妙子

みんな元氣でさようなら。小森敏江

大いちよう卒業しても元気でね。寺町すみ子

いろいろの先生替つて、今日まで勉強、さらば。河瀬喜代

なつかしい金華学校よさようなら。金津きよ子

朝夕に教え導く師の恩を思えばなつかしい。篠田佳子

金華のみなさん、希望を持つて進みましよう。清水浩子

はるかなる希望にもえて、大いちよう。栗本富子

さらば、友よわかれ行く。横山かよ子

花のかおりと共に学校を去つて中学へ。杉山博子

へんしゅうしつから

○本号は卒業特集号といたしました。かがやかしい希望をいだいて巣立つた卒業生の皆さんの、御多幸を心からお祈りします。

○校長先生、各擔任の諸先生からいただいた御さとしをよく読んで、之からの生活の指針として下さい。